

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	青海町立青海中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	12	22
生徒数	93	83	87	4	267	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「自らの向上を目指し、意欲をもって学ぶ生徒の育成」 ～ 学び合う人間関係の醸成と、学力向上を目指す課題設定、学習形態の工夫 ～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科で実施 ・全ての教科で学力向上に取り組むことにより、全体の意識が高まり、相乗効果が期待できる。 ・学力向上の課題は多様であるが、全ての教科で、さまざまな視点から実践研究をすることにより、広汎に地域の学校への普及が期待できる。</p>
--

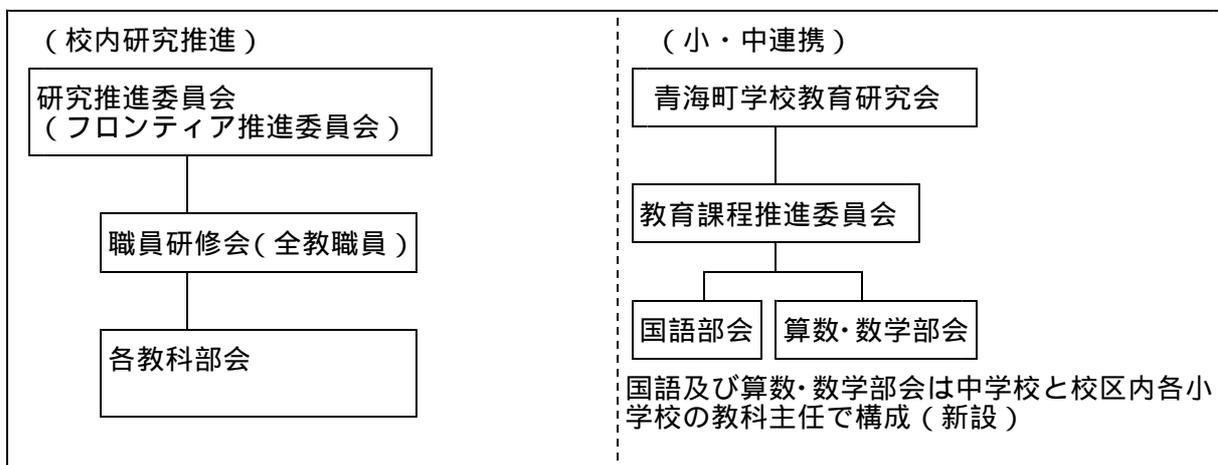
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「自らの心を耕し、たくましく自立する生徒の育成」 副題 学び合う人間関係の醸成と、学力向上を目指す課題設定、学習形態の工夫 研究の見通し（仮説） 集団における学び合う人間関係の醸成を基盤に据え、児童生徒一人一人の個に応じた課題設定ときめ細かな指導により、生徒は確かな学力を身につけるであろう。</p> <p>研究内容 (1) 個に応じた課題設定の工夫 生徒の習熟に応じた課題の設定 思考力や表現力を育てるための課題設定 生徒の興味・関心に応じた選択課題の導入 (2) きめ細かな指導をするための学習形態・指導体制の工夫 習熟度や課題別編成による少人数指導やチームティーチング実施 基礎・基本を定着させるための放課後学習や家庭学習の充実 個別学習やグループ学習を進めるためのオープンスペース活用等の工夫 (3) 小学校と連携した指導の改善 小・中連携した学力の分析と共通実践 小学校から中学校への移行を円滑に進めるための授業交流</p> <p>研究方法 各教科で、生徒の学力分析を通して指導方法の改善が必要な単元を選び出すなどし、個に応じた課題設定の工夫や学習形態、指導体制の工夫などを行い、その効果を検証する。 また、放課後学習や家庭学習の充実については学年部や学級指導と連携するとともに、小学校との連携については、青海町学校教育研究会と協力して推進する。</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 「自らの向上を目指し、意欲をもって学ぶ生徒の育成」</p> <p>研究の見通し 集団における学び合う人間関係の醸成を基盤に据え、児童生徒一人一人の個に応じた課題設定ときめ細かな指導により、生徒は確かな学力を身につけるであろう。</p> <p>研究内容・方法 基本的には前年度の研究の継続であるが、特にきめ細かな指導法に重点を置き、習熟度や課題別編成による少人数指導やチームティーチング、基礎・基本を定着させるための放課後学習や家庭学習の充実を中心に実践の工夫をする。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「自らの向上を目指し、意欲をもって学ぶ生徒の育成」</p> <p>研究の見通し 集団における学び合う人間関係の醸成を基盤に据え、児童生徒一人一人の個に応じた課題設定ときめ細かな指導により、生徒は確かな学力を身につけるであろう。</p> <p>研究内容・方法 基本的には14年度・15年度の継続であり、きめ細かな指導について、一層の充実を図る。また、学び合う人間関係についてもう一度点検し、実践の工夫をする。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度は、数学と英語の他、保健体育や国語、理科などでも部分的ではあるが、TTを実施した。また、定期テスト前の放課後には、それぞれの教科で基礎・基本の定着が不十分と判断される生徒に対し、補充指導を行った。これらの取組の結果、昨年度と比較し、特に成績中位から上位の生徒に学力の向上がみられた。
<次のデータ参照>

* 同一集団で比較するため、15年度の2・3年生の成績を、前年度の1・2年生の成績と比較した。

* 評定の割合は、9教科全ての5段階評価を合計し、全体に占める割合を求めた。

絶対評価 (5段階)	15年度2学期 (2・3年生)評定割合	14年度2学期 (1・2年生)評定割合	比較
5	18.8%	15.7%	+3.1
4	35.7	32.6	+3.1
3	35.7	37.4	-1.7
2	5.8	9.6	-3.8
1	4.0	4.8	-0.8

基礎・基本の定着には、家庭学習の習慣が大切であると考え、生徒向けの手引きを作るなどとして、家庭学習の充実に向けた取組を行った。その結果、2・3年生については、家庭学習時間の増加が見られた。〈次のデータ参照〉

	14年10月調査	15年7月調査	16年2月調査
13年度入学生	(2学年) 16分	(3学年) 26分	(3学年) 63分
14年度入学生	(1学年) 29分	(2学年) 29分	(2学年) 37分
15年度入学生		(1学年) 38分	(1学年) 26分

* 平日の
家庭学習時間
の平均
(塾などを
除く)

2. 今後の課題

今年度は「きめ細かな指導の工夫」として、TTによる指導の改善を中心に実践をしたが、加配教員1名ではTTの拡大に限界がある。そこで、場面によっては、生徒どうしの教え合い学習がそれを補完できるのではないかと考えた。今後は、どのような場面でTT指導が有効で、どのような場面が生徒どうしの教え合い学習で補完できるか実践研究を行う。

2月の家庭学習調査では、1年生の家庭学習が7月に比べ減少していることがわかった。小学校と連携した調査でも、小学校で身につけてきた家庭学習習慣が、中学校入学でとぎれていることがわかった。この原因として、課題の出し方や、点検のしかたが、小学校と違うことなどが考えられ、今後は、そのような点も考慮して家庭学習習慣の定着を図りたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・標準学力検査(NRT)
前年度の学力の定着を確認し、指導方法の改善に役立てる
〈2・3年生は5教科、1年生は4教科〉(毎年4月に実施)
- ・学期末評価
各学期ごとの学力を評価し、保護者に知らせるとともに、指導方法の改善に役立てる
〈全学年、全教科〉(年間3回実施)
- ・学校生活アンケート
学校生活に対する生徒の取組(適応)状況を把握し、指導方法の改善に役立てる
〈全学年〉(年間5回実施)
- ・学習実態アンケート
学校外における学習の状況や、生徒どうしの教え合いの状況について調査し、指導方法の改善に役立てる
〈全学年〉(年間2回実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【研究会等】

平成15年10月29日

青海中学校において、地域の小・中学校教員及び保護者を対象に、2年目の研究成果を発表するとともに、国語、英語、音楽、美術、保健体育の研究授業の公開と、研究協議会を実施

平成15年11月11日

青海中学校において、地域の小・中学校の教員を対象に、社会、数学、理科、技術・家庭科の研究授業の公開と研究協議会を実施

【研究誌】

平成15年10月

「2年次 中間報告書」作成

平成16年3月

「15年度 校内研究のまとめ」作成予定

平成16年3月

H P作成予定

【普及活動の成果】

中間発表の協議会では、各学校の取組なども報告しあい、お互いの成果や課題について情報を交換した。各小・中学校でも、積極的に学力向上に取り組んでいる様子がみられた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無